

## 成果報告書 1

学校名	洋野町立林郷小学校
活動名	つながる自分 つなげる自分 ~ひろのの 山・海・川・ひと~
教科	総合的な学習
学年	5・6年

### 1 はじめに

5・6年生は、海洋教育の一環として、さけ・ますの放流、ヒーローの旅（沿岸地区での民泊体験）を通して、海、川についての理解を深めてきた。地元の自然に目を向けていく過程で、大野のなだらかな高原が、大昔海底であった海成段丘だということを知り、酪農について興味をもつようになった。そこで、「なぜ大野で酪農が盛んなのか」を調べるため、おおのゆめ牛乳を生産している間澤牧場に調べ学習に行くこととなった。

### 2 活動のねらい

- ・ゆめ牛乳の生産者である間澤牧場が、牛乳の生産過程において、どんな工夫をしているかを調べる。
- ・大野で、なぜ酪農が盛んに行われているかを調べる。

### 3 活動内容

- ・酪農や乳牛について知っていることや疑問を出し合う。
- ・間澤牧場の見学と生産者への質問を通して、酪農に対する知識を深めたり、疑問を解決したりする。

### 4 間澤牧場見学について

- (1) 期日 平成29年11月30日（木）
- (2) 場所 洋野町大野阿子木 間澤牧場
- (3) 体験・見学の実際

#### ①ゆめ牛乳生産者である間澤葉子さんによる酪農全般と乳牛についての説明

生産者である間澤葉子さんに酪農の仕事の内容と乳牛の体についてお話ししていただいた。児童は、初めて知ることがたくさんあり、酪農についての興味・関心をさらに高めることができたようだ。特に児童にとって印象深かったのは、以下の事である。

- ・牛乳の成分の元は、乳牛の血液であり、1Lの牛乳をつくるために400Lの血液が必要である。
- ・牛は、「反芻（はんすう）」と言う方法で、4つの胃を使って餌である牧草を噛み直し、栄養分を吸収しやすくしている。そのため、内臓の働きが活発になり、平熱が約38.5℃に保たれている。よって、寒さに強い動物である。
- ・1頭あたりの1日の搾乳量は、平均25Lである。多い牛は、1日50L弱にもなる。
- ・主な餌は、牧草、デントコーン、栄養価の高い粒状の餌である。牧草は、5～8月にかけて、デントコーンは、10月に刈られる。刈り取りの時期は、天候との勝負で常に緊張感がある。
- ・牧場の自然は循環しており、一切の無駄が無い。牛が餌（牧草）を食べる→糞をする→牧草と混ぜてたい肥にする→新しい牧草が生える、といった循環を繰り返している。
- ・大野は、なだらかな高原が多いことと、すずしい気候であることが、酪農に好条件である。

#### ②子牛へのミルクやり体験と牛舎等の見学

実際に自分達の手でミルクを作り、子牛にミルクを飲ませる体験をした。また、牛舎内と機械類の見

学をした。体験・見学後には、「また見学に行きたい。」、「もっと体験がしたい。」といった声が見学から聞かれた。

酪農に使う機械に関する説明では、酪農家が牛を育てているだけではなく、機械の管理や修理まで、幅広く仕事をしていることを知ることができた。また、機械は何種類もあり、牧草を刈る機械、牧草を大きなかたまりにする機械、デントコーンを刈る機械、など1つの仕事に対して専用の機械があることに驚いていた。

以下、見学の様子である。



胃の模型を見ながら反芻の仕組みを学ぶ



搾乳されて間もない牛乳を見る



実際に餌（ミルク）やりを体験する



糞、牧草はたい肥となり、循環する

## 5 活動の成果と今後の見通しについて

この見学と体験活動を通して、酪農家の工夫や苦勞を知ることができた。特に、なぜゆめ牛乳として、県内だけでなく、関東方面にまで広く飲まれているかということ、品質が良く、乳脂肪分が多いからということが分かった。児童は、生産者の「おいしい牛乳をできるだけ多くの人に飲んでほしい。」という思いを肌で感じたようだった。

見学は1回の予定であったが、児童から「もう一度見学へ行き、いろいろな体験をしてみたい。」、「新たな疑問が出てきたので、もっと間澤さんに質問したい。」という声が上がったので、3学期にもう一度、間澤牧場に足を運ぶ予定である。

また、牧場の見学、体験で終わるのではなく、最後は、おおのミルク工房へ行き、牛乳が製品になっていく過程と流通について調べさせたい。そうすることによって、大野の自然、産業への関心がさらに高まるとともに、大野を誇りに思う気持ちが育まれるのではないかと考える。

5・6年生「つながる自分 つなげる自分 ～ひろのの 山・川・海・ひと～」

【実践のねらい】

高原と海が身近にある町内の豊かな自然やその恵みと町内・地域の人々とのふれあいを素材とした横断的・総合的・探求的な学習を通して、自ら学び、自ら考え、主体的に判断したり思考したりしながら課題を解決する資質や能力を育てる。その学習過程で学び方やものの見方や考え方を育み、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、洋野への愛着をもった心豊かで自信に満ちた生き方を想像する児童を育てる。

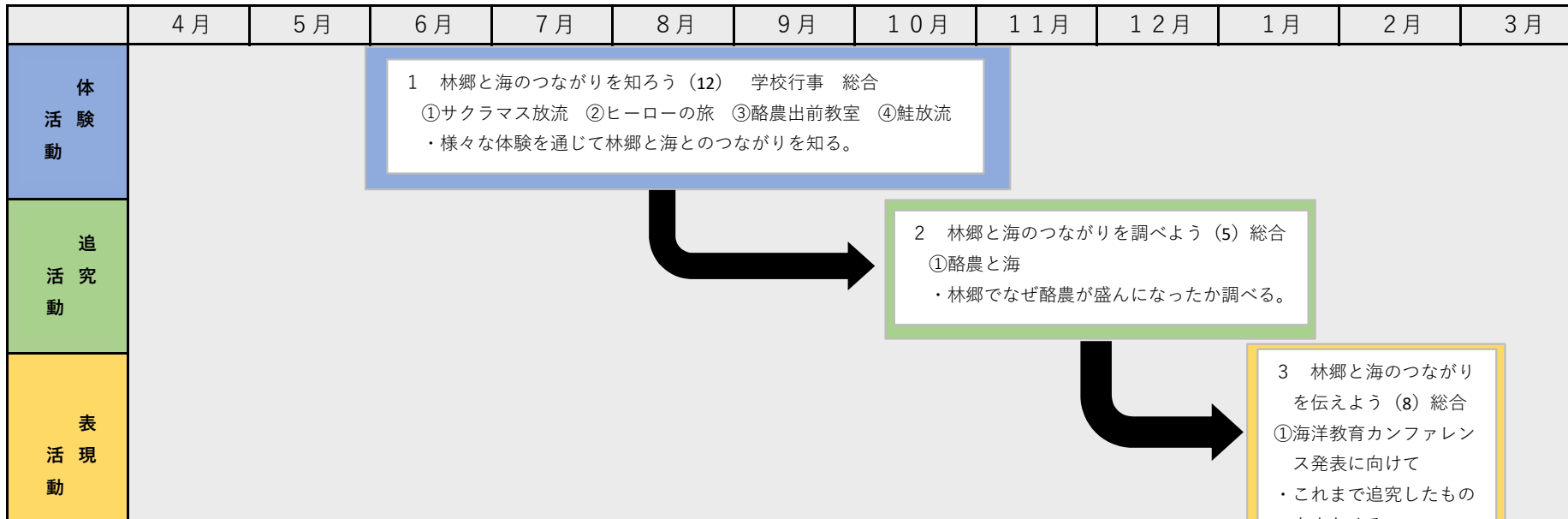
【主な連携機関と内容】

- ・岩手県内水面養殖漁業協同組合：サクラマス放流
- ・JA全農：酪農出前教室
- ・大野ふるさと公社：ヒーローの旅
- ・大野の自然を守る会、有家川鮭鱒孵化場：鮭放流
- ・間澤牧場：牧場見学

○時数 6月～3月 25時間（学校行事 2時間 総合的な学習の時間23時間）

○関連 理科、社会科

- 目標
- (1) 身近にある山、川、海のをさを再認識したり、自然の恵みを教授しながら生きていくことの素晴らしさを体感したりすることができる。
  - (2) 身近な山、川、海を素材として、それらとの関わりを通して生じた疑問を探求的に解決しながら、地域の自然のよさを知ることができる。
  - (3) 問題解決に向けた過程を通して、ものの見方や考え方を学んだり、主体的に探求活動をすることの楽しさを知ったりすることができる。
  - (4) 自分の周りの人々とふれあいを通して、ひろの・林郷に生きることのよさに気づいたり、誇りを感じたりして、ひろの・林郷への愛着をもつ



をまとめる。